

平成26年第10回
上小阿仁村議会定例会
会 議 録

平成26年12月16日（開会）

平成26年12月18日（閉会）

日程第4 一般質問

○議長（小林信） 日程第4 一般質問を行います。

質問の通告がありますので、発言を許します。3番 齊藤鉄子君。

（3番 齊藤鉄子議員 一般質問席登壇）

○3番（齊藤鉄子） トップバッターで、チョット緊張しておりますが、どうぞよろしく願いいたします。

私は、農業への支援ということで、今年度の米概算金が昨年よりも3,000円も下がり、過去最低の価格となりました。また、交付金が半額となり、米に依存している大規模農家ほど打撃は大きいと思います。農協の情報によりますと、およそ8,500万円の減収となるようであります。

今後、耕作を止める農家や担い手、後継者など意欲を失う可能性があります。

農業は、作物を生産するだけではなく、多面的な機能を持つことをご存知だと思います。この自然豊かな良く手入れされた農村風景が、将来、もしかしたら見られなくなるかもしれないのです。

農家が意欲を持って農業を続ける支援策をお願いしたいと思います。

1つ目として、肥料、農薬、種モミ購入などへの助成を検討していただきたいと思います。

2つ目として、国では、18年度で減反を廃止するとしております。

野外生産試作センターでいろいろな作目に取り組み試作しておられますが、地場産の山菜、キノコなどの検討をされたらどうでしょうか。以前には山菜、コゴミ、タラの芽などをハウスで冬季栽培をして、春一番のネーミングで販売しておりました。苗の確保がだんだん難しくなり、生産者が減っていったと聞いております。村長ご自身も山菜などの栽培には、かなり力を入れて普及啓蒙に励まれてきたと思っております。ここらで本腰を入れて、野外センターで試作をし、農家に再度生産させるようにしたらどうでしょうか。

以前の反省も踏まえ、苗の確保、使用済みの苗の山への戻し方など課題が沢山あると思います。キノコもいろいろやり方があると思うので、検討していただきたいと思います。

1つ目の質問はこれで終わります。よろしく願いいたします。

○議長（小林信） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 農家への支援策についてということで、今年度、大変米の下落によりまして、農家自身、将来不安をもっているのではないのかなというふうに推察はいたしております。

今年の米の概算金は、昨年と比較して60kg当たり3,000円もの大幅な下落となっており、本村の米の売り上げと国の交付金の半減を加えた農業収入は約

9,800万円が減少すると試算されております。

県では収穫後の支払等に対応するため、金融機関と協力して、稲作経営安定緊急対策資金預託金貸付事業を創設して無利子融資の実行を行って対応しているところであります。その際、必要となる保証料を村が補助する助成を行っております。

大幅な収入減収という大変な事態ではありますが、今回の価格下落の原因は全国的な米余りに起因しており、今年に限った一過性のものとは考えにくく、来年度産以降も米価の低迷は継続すると予想されます。これに対する肥料や農薬等の資材購入や種もみへの補助を行ったとしても一時しのぎにしかならず、根本的な解決が図られる訳ではないと考えます。

現在のところ村独自の支援策はありませんが、農家は主食用米を中心とした農業経営を継続していくには自らが高値で販売するシステムを構築するか、主食用米中心から経営方針を転換するかを選択を迫られております。

価格下落に対応したセーフティーネットであるナラシ対策への加入促進や、飼料用米への生産誘導、野菜等の複合作目への転換加速が全国的な流れになっておりますので、村としては、関係機関と協力しながら誘導を図っていく考えであります。

特に、飼料用米への転換について、あきた北央農協ではいち早く飼料用米利活用推進協議会を立ち上げ、販売先である実需者とのマッチングの構築も出来上がりつつあり、飼料用米に転換しても受け入れ体制は、かなり早い動きとなっております。飼料用米は、主食用米に比べて販売額が安いものの、国からの交付金が手厚く、基準単収を上回るほど交付単価も上がる仕組みとなっており、主食用米の収入と同等もしくは上回ることが予想されます。

農家は、既存設備を活用でき、栽培のノウハウなども有していることから、今後、大規模に転換して経営の安定につなげていただきたいと願っております。

支援策につきましては、今後、他の自治体などの動向もみながら、何ができるのか検討をさせていただきたいと思っております。

次に、野外生産試作センターの件でございます。

野外生産試作センターでは、農家へ安価な野菜苗の供給、花苗の供給、野菜等の試験栽培、畑作等の相談を行っております。野菜の栽培につきましては、直売用出荷用の少量多品目を栽培しておりますので、作業効率が悪くなっておりますが、栽培の難易度や市場価格を見ながら、本村に適した品目なのかどうかを実施しているところであります。併せて、施設の採算性が上がるよう努めております。

野外生産試作センター開設当初に行っておりました春一番につきましては山中からウドやコゴミの苗を採種し、ハウス内で促成栽培を行ってきたところで

あります。しかしながら、年数が経過するにしたがって株の採種が里山から奥山へと移行し、採種作業も重労働であることから、思うように株が集まらなくなった経緯があります。また、促成株を作るにしても、山菜の場合は3年、4年もかかることから、非効率となっています。

しかし、豊かな自然の恵みを活かさない手はありませんので、山菜の販売で収益をあげられるよう、高齢者でも栽培できる品目について考慮してまいりたいと考えております。

山菜栽培などは、私もやっているわけですがけれども、ある山、ある林、そういったものの林間を活用してやってもいいのではないのかなとすごく思います。村内をときどき歩けば、シドケとか一杯林の中に栽培している方もおられますし、また、畑でやっている方もおられます。そういった意味で少しずつ農家の皆さん方も自分でできることを模索しながらやってきているのではないのかなという感じを持っております。そういった意味で、こういった取り組みがもっともっと技術の進歩や周りの方々と情報交換をしながら盛んになってもらえれば、この上小阿仁村は、山菜王国とまで言われている地域でありますので、皆で頑張っていければなあと思います。

また、ご質問のとおり野外生産試作センターでの山菜栽培ですが、なかなか技術力といいますか、そういったものが余り多くの品種をやっているために、なかなか継続してやっていけないような、そういう状況下にあるのではないのかなと、自分なりにも思っております。そういった意味で、山菜栽培を得意とする方々が村の中におりますので、そういった方々をお願いして、講演なども行ってきておりますので、野外生産試作センターだけとは思わずに積極的に専門といいますか、栽培している方々に問い合わせをして、自分で広げていくというのをもひとつの方法かと思っておりますので、そういった面もお考えいただきたいなと思います。

○議長（小林信） 3番、齊藤鉄子君。

○3番（齊藤鉄子） ご答弁ありがとうございます。1つ目のいろんな支援は今のところ考えておられないということでありましたが、他の方の自治体の例をとりますと、大館市では肥料、農薬購入費に対しての助成もありました。それから北秋田市では、水稻の種子購入に対する助成を検討ということであります。東成瀬村の方では、今年の26年度の予算、3月の段階で米価が安くなるということで、もう当初予算にその3年間の米価を比較してみて、差額の助成であったように思います。そういったふうに各自治体では、農業が、米が、秋田県は米が主体であります。米がだめになると、もう地域が元気にならないということで、そういったことを検討されているようであります。そして、大館の方では農地中間管理機構を利用した農家に対しての、その農地集積加算補助金、

これは貸して側の方には出るのですけれども、受け手側の方にも、そういった補助金を検討しているということでありました。ですので、まして上小阿仁村は農林業が基幹産業であると、村長、いつも言っておられますので、農家は土地があります。土地をキチンと手入れをして管理して、そうやって守っていくという先祖伝来の土地を守り育てていく役目をもっていると思っております。ですので、意欲をなくさないように支援策を検討していただきたい思うのであります。

2つ目の山菜、キノコなどへの支援ということで、まず、村長もいろいろおっしゃられました。この村でも山菜などには個人的にもいろいろ工夫して、継続して栽培して販売しておられる方もあります。やっぱり公共のそういったところでこれをやるからもっと村の方でも力を入れてやるから、あらためて栽培してみないかという大きな後押しといたしますか、そういったことは農家にとっては必要で、農家でなくても、今、退職されて時間的に余裕のある方には、そういった面で、少しの収入になるのだということ意欲を持ってもらえるのではないかなと思うのですが。キノコなども自然のキノコだけでなくホダギを利用していろんな植菌しながら、シイタケだけでなくいろんな種類のキノコの栽培ができますので、そういった面にも力を入れて、上小阿仁村は山菜の宝庫なのだ、キノコの宝庫なのだということを、もっとPRしていけばいいのではないかなと思います。村長、如何でしょうか。

○議長（小林信） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 再質問にお答えしたいと思います。

米の状況は、単価がかなり下がりがして、生活するのも大変だなと思います。約8千万、9千万という収入が、村の農家の収入が途絶えるというふうな状況下におかれているというのも、私も大変だなというふうに思っております。しかし、それに対して、今、どれだけ村が支援できるのかといたしますと、やはり収入の補償を村ができるかといえば、それはやはり難しいのではないのかなと、利息の補填とか、そういったものであれば借入れのお手伝いとか、そういったものに対してはやれる可能性は出るのだけれども、個人の収入に対して支給していくということになりますと、あらゆる方向に影響がいくのではないのかなと。

村には農家だけが暮らしているわけでもありませんし、商店の方々も、やはり売り上げがずっと落ちてきております。そういった意味では皆厳しい中で努力しながら生活をしているわけですので、そういった面を考えると、特別農家だけにとというわけにはいかないのではないのかなと。前は冷害というひとつのことがあって、それで種もみに補助をしたということは、村でもありました

し、全然やらないという気持はもってはいないわけですので、まず、周りの市町村との調和を図りながら、また、例えば、あきた北央でも合川地域とか、森吉地域とか、阿仁地域と、上小阿仁の農家との差が出れば、これもまた考えていかなければならないのかなというふうに考えてはおります。

それから、山菜などの件ですけれども、山菜は好きでなければできないわけです。そしてまた、物事はみんなそうだと思うのだけれども、自分が好きでのめり込んでいって始めて技術というののできてくると。これ役場で、野外センターでやったときは、なるほど、タラの芽とかコゴミとか、ウド、これ皆に奨励しました。しかし、それがなぜ続かなかつたとなりますと、元を山から供給するということが、やはり、だんだんに遠くになって人がやめていったというふうに考えております。

種を供給できるだけの試作センターであればいいのだけれども、なかなかそういうふうになっていないということで、各集落でも山菜栽培して一生懸命頑張っている方々がおられます。そういった方を目にします。ですから、こつこつとやって、そして道の駅に山菜を出して、そして喜ばれているというふうな方々もおられますので、できれば、各自がそういうふう努力してもらいたいなあと、奨励することは可能であります。ただ、種を供給するということとなりますと、これはなかなか厳しいかなと、上小阿仁の春一番というのは、商標登録も取りましたし、あの当時、ウドとかタラの芽とか、それからコゴミなんか、本当に皆さんが一斉に取り掛かって、上小阿仁村の山菜というネーミングが春一番という形で市場に出て行った時もございます。それが継続できなかったということが、やはり、どっかになにか問題があるのかなというふうに考えられます。

私は、山の中の林間を使った栽培を、今現在も続けております。キノコの栽培もやっておりますし、そういった意味では畑でやるよりも、山菜は山の中の方が、肥料分がいらぬわけですので、余計な肥料があれば、山菜は腐ってなくなってしまうということで、山の中での栽培が一番適しているなど思っておりますので、そういった面、実践している方々に講習会みたいなのを、またやってもらいながら広めていければと思います。なるほど、キノコなんかも、その現地で植菌をして、それでやっている方々もおられます。山元で倒したままに、村でもそういう試験栽培をやってきました。それでも十分栽培ができると実証もございしますので、そういった意味ではやりようによっては、いろんなことができるのではないのかなと思いますので、なかなか技術を高めて皆さんに、さあ、やってというふうな形で、そこまではまだまだできないのかなと、やれないとはいいませんけれども、それによって収入が上がるとか、儲からないとか、そういう責任は負えないということになります。

以上です。

○議長（小林信） 3番、齊藤鉄子君。

○3番（齊藤鉄子） ありがとうございます。北央農協の方といろいろと相談しながら連携して、ご検討をお願いしたいと思います。

次、2つ目の質問に入ります。

公共施設の充実ということで、村の子育て支援は、他の市町村と比較しても、かなり充実していると思います。近年、各地の道の駅、量販店など、当り前のようにオムツの交換ベッドが設置されております。村の施設には、今までなかったオムツ交換ベッドの設置をと提案したのですが、今回の予算書の中で計画がありました。大変良かった思っております。ただ、村の一番の顔である道の駅には計画されていないようですので、ぜひ、早急な対策をしていただきたいと思っております。

2つ目として、環境にやさしいクリーンエネルギーとして、風力、水力、太陽光など、いろいろありますが、エコカーとして電気自動車の普及がかなり進んでおります。そこで、道の駅に高速充電設備を設置の検討をしたらどうかと提案いたします。

この高速充電設備は9月までですと、メーカー4社からの補助金があり、設置費用はほとんど出さなくてもよかったですようですが、今回は、国から3分の2の補助金しかないようなので、費用が大分かさむようですが、損して得をとれという諺もあります。高速充電装置のある道の駅ということで内外にPRできますし、充電している間に食事をしたり、買い物をしたりと、いろいろ道の駅も活性化するのではと思うのですが、如何でしょうか。お願いいたします。

○議長（小林信） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 2点目のご質問ありました公共の場でのオムツを替えるスペースということで、現在、村の公共施設には、子育て制度利用者が安心してオムツ交換ができる設備や環境が整備されておらず、利用者にご不便をおかけしている状況にあります。ご質問のとおりであります。

そのため、県の交付金を活用して、乳幼児を持つ保護者の利用が見込まれる村の公共施設、保健センター、物産センター、生涯学習センターの3カ所にオムツ交換台と赤ちゃん用のイスを整備することを計画し、今回の議会で補正予算を計上しておりますので、よろしく願いをいたします。

オムツ交換台等を設置することにより、少しでも利用者の不便の解消につながり、乳幼児を持つ保護者が安心して利用できる施設にしていきたいと考えておりますので、よろしく願いをいたします。

また、もう1点の道の駅に電気自動車の充電施設を設置してはどうかと

いうお話でございます。

メーカーから春に私の方にも相談がありました。ただ、その時、やはり持ち出しはいくらかありました。その後、補修とか故障とかに対する補助があるのかといいましたら、今ところはないということと、それから充電時間と充電距離、やはり、これが少し問題になるのではないのかな、私は、なるほど電気自動車は環境に優しいということで、これからのエネルギーとして、電気自動車は発展していくのかなと思っておりました。ところが、今日、トヨタ自動車から未来というE E C Tとか、なんとかいうそういうバッテリー、電気を作りながら走ると、水素で電気を作りながら走るという車が発売されました。これは3分で燃料を詰めるとか、ガソリンと同じような形でできると。それから、650キロから700キロ走れるのだと、そうなりますと、いくら道の駅に1時間も充電しなければならぬ機械を置いて、なかなか今メーカーの方が、どちらの方に進んでいくのかなと思いますと、私は、今、水素燃料の方に進んでいるのではないのかなと、これはマツダも日産も、これが来年あたり発売になるという情報も得ておりますので、そういったことを考えますと、これからどちらの方に進んでいくのかなと、まだ、この自動車は700万円とか、大変高価なものですので、すぐには普及しないと思いますし、そしてまた、水素燃料を供給する施設が、拠点一杯できていかなければ、ガソリンスタンドみたいにできていかなければ普及はしないと思いますけれども、魅力的なのは、私は、やっぱり水素燃料の方が魅力的でないのかなと。

電気自動車は、こちらの方でいきますと、冬場になりますとバッテリーすごく使います。ワイパー、夜の電気、暖房という形で、今のところでは走行距離がどんどん短く、ただ、技術革新が起きてくると思いますので、両方考えながらやりたいなあと。なるほど、国土交通省の方からも、その電気自動車の充電施設をやらないかと、こういう補助金がありますよというの、この間聞きましたので、そういった面も検討はしております。ただ、今すぐという訳にはいかないで、まず、もう少しいろんな選択肢を見極めながら、それをやっていければなあと思っております。

もう、いろんな形の自動車がこれから普及してくるのかなあと、今ガソリンだけではないということがはっきりしましたので、電気自動車もそうですし、この水素燃料自動車もそうですし、また、もっと違う自動車が出る可能性があるわけです。そういった意味で、一旦施設にそういうのを導入してしましますと、その時はいいのですけれども、次が育って、誰がお金を出してくれるかということが、私は、この道の駅、メーカーが来た時に感じたのは、なるほど、今は日産でもマツダでもトヨタでもお金を出してくれますよと、例えば200万円制度資金出しますよと、これでできますよと言われても、では維持管理はど

のくらいかかるのか、その点はあと自分方が、道の駅の売り上、それで増えるでしょうという想定のことしか話しをされておりません。

ですから、新しくできた道の駅では、こういう設備も一緒に導入してやっているところも沢山あります。ですので、まだまだいろんな可能性があると思いますので、一概に私はやらないといいませんので、いろんな方面を研究しながら、情報を得ながら慎重に検討させていただきたいなと思います。

以上。

○議長（小林信） 3番、齊藤鉄子君。

○3番（齊藤鉄子） ご答弁ありがとうございます。

電気自動車のことですが、冬場は、バッテリーが結構消耗するということであまり走らないのではというお話でしたが、各メーカーでも充電作りがあり、各自動車会社でも充電設備があるので、そのつなぎつなぎでは結構走れますので、冬場でもそういった心配はないように思います。それで、ちなみに県内の道の駅に付いているところは、象潟のねむの丘には付いているそうです。それから、仙北市の仙北市役所田沢湖庁舎で急速充電設備があるそうです。

やらないということではないということですので、何かいいそういったことがありましたら、ご検討を再度お願いしたいと思います。

それともう一つ、先ほどの道の駅の方にオムツのベッドの設置をお願いしたのですが、そこら辺は如何でしょうか。先ほどは物産センターの方には予算でつけるということでしたが、道の駅の方には如何なものでしょうか。

○議長（小林信） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） お答えします。

今回は、県の制度を活用しながら取り付けていくということで、3カ所の分を申請し、それでお願いをしていると。もともと物産センターの方には、そのスペース、小さながあるわけですがけれども、なかなか利用状況が今のものと合わないような形だと聞いておりますので、まずそれを改築していく。道の駅のトイレの方にあります。ですから、それがあということなので今回は3つにしたというふうに聞いております。

○議長（小林信） よろしいですか。3番、齊藤鉄子君。

○3番（齊藤鉄子） ありがとうございます。道の駅にオムツ交換ベッドがありますか。

○議長（小林信） 総務課長。

○総務課長（小林悦次） 道の駅の中に、トイレを建設した時に、女子の方のトイレの入口に入ってすぐ右側のところに小さな子どもさんが落ちないように作った小さなベッドがあるのでありますが、そこで、オムツ交換等も含めて対

応していただきたいというようなことで、県の方からは説明を受けております。

○議長（小林信） はい、3番。

○3番（齊藤鉄子） はい、ありがとうございます。今は、1つの部屋にトイレの中に、そこで回りを気にしなくても交換するような設備になっております。そこら辺も検討を、これからはよろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（小林信） 答弁ですか。はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 大変失礼しました。今、議員がおっしゃるのは、多分新しい施設になりますと、自分がトイレのスペースの中において、赤ちゃんをおきながら自分も用をたせるということと思ひますけれども、今の道の駅の中のスペースの中ではチョット無理かなあと、例えば改造しなければならないとか、そういった辺のものがあるのではないのかなあと。私、女子トイレに入ったことがありませんので、よくわかりませんので、後で見ながらできるのであれば県の方に要望してまいりたい。道の駅は県の施設ですので、勝手に村が修繕工事するとか、そういったわけにもいかないということですので、県の方に要望して、それがてぎるのか、できないのか確かめていきたいなど。今までも洋式のトイレ化というの、県の方に要望して、順次改築してもらってきておりますので、今、議員がおっしゃったように女子のトイレの方でも、今こういうふうな流れですよということを説明して、そして、何とかして1カ所でも2カ所でもいいから、そういうふうにやってもらいたいということを申し上げて、要望してまいりますので、どうかよろしくお願ひいたします。

○議長（小林信） 再々でありますけれども。

○3番（齊藤鉄子） はい、ありがとうございました。勘違いされているようなところもあるのかなと思ひますけれども、今の各道の駅を見ても、広い仕切られたドアでひとつの部屋の中にトイレもあって、そのオムツのベッドもあって、そういうふうなスペースがとられております。そこで気兼ねなく、他の人の目も気にすることなくオムツを交換ができる、そういった設備になっておりますので、そこら辺の検討も、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上、これで私の質問を終わります。どうもありがとうございました。